

第9回標準化とアカデミアとの連携に関する検討会  
(令和7年度第3回検討会)  
議事要旨

1. 日時 令和8年2月2日(月) 14時～16時
2. 開催場所 経済産業省別館2階 227会議室(オンライン併用)
3. 出席者  
岩田委員、上野委員、澤井委員、北村委員、椿委員、野田委員、  
藤本委員、本吉委員、内海委員、武田委員、立本委員(オンライン)、  
小太刀委員  
(全委員15名中、本人出席12名)  
経済産業省：小太刀国際電気標準課長ほか  
事務局：日本知財標準株式会社

4. 議事要旨

(1) 今後の標準化とアカデミアとの連携に関する検討会について  
資料2を基に、経済産業省より説明を行った。質疑応答は特になし。

(2) 標準化人材情報 Directory (STANDirectory) の進捗状況について  
資料3を基に、経済産業省が説明を行った。以下、主な発言。

- ・日本弁理士会の事業施策の一つとして、標準化への取組を強化している。登録している弁理士からは、STANDirectoryを通してこれまで標準化人材へのアクセス方法がわからなかったであろう企業知財部の方もアクセスが可能となり、ネットワークの広がりを感じるとのコメントがあったことを紹介。
- ・STANDirectoryに知財・標準化一体サポート人材やITU-T人材が追加され、拡張されていくのは良いこと。

(3) 令和7年度における標準化人材に関するアカデミアとの連携策の実施状況について  
(3-1) アカデミア関係

資料4-1を基に、事務局が説明を行った。以下、主な発言。

- ・「アカデミア国際標準情報連絡会(仮称)」(以下「連絡会」)において、情報共有だけでなく、国際標準化に関する相談が可能であれば、学会における情報収集の困難さを解決できるのではないかと。  
→学会等からの相談を受けることも想定したい。
- ・産総研等は、国際的な標準化のための研究スキームであるVAMAS(Versailles Project on Advanced Materials and Standards)に参加しており、その活動成果である学術論文をベースにISOで国際標準化が行われている。このような活用事例を連絡会で紹介することも有効ではないかと。  
→是非ともお願いしたい。
- ・標準化によって技術が普及され、産学双方で取り組んだ結果として社会実装まで繋がる。連絡会や産学連携フォーラムにおいて、標準化も含めて社会実装のための戦略、アプローチまでの議論を期待している。社会実装につながれば、アカデミアの標準化活動への動機づけにもなる。
- ・本検討会での議論と、オープン&クローズ戦略を踏まえた標準化推進を通じた日本の企業競争力の強化に係る全体像との関連をどう考えているのか。

→2023年の「日本型標準加速化モデル」の三つの柱（標準化人材の育成確保、経営層への標準化の浸透、研究開発の早期段階からの標準化）を実施していくためには、アカデミアと産業界との連携が重要。全体的な議論も重要だが、アカデミア固有の課題もあるため、本検討会で議論していただいている。本検討会での議論については、三つの柱を実施、すなわち我が国の産業競争力強化という全体的な施策の中に落とし込んでいくこととしている。

### （3-2）大学における講座設定等

資料4-2を基に、事務局から説明を行った。以下、主な発言。

- ・日本弁理士会では、会員を対象とした7つ研修（受講者累計約1000名）を実施。研修の内容は、規格策定前、規格策定前後及び規格策定後の市場の段階毎にフォーカスしたもの。次年度以降も関係機関のご協力をお願いしたい。
- ・JSAの機関誌（標準化と品質管理）に大学等における標準化教育に関連する記事を掲載した。大学からの要請でJSAから講師派遣や教材の無償提供をしている。JSAでは、来年度、大学の教員間でそれぞれの取組内容を共有できるネットワークづくりを考えている。また、シラバスのガイドラインは、JSAのネットワークでも紹介することは可能である。
- ・企業では標準化の大切さは理解されにくい。最近では若手が表彰され、若手が標準化に関心を持つようになった。アカデミアを対象とした表彰区分があると、評価につながるのではないかと。また継続することも極めて重要。  
→今年度から、産業標準化事業表彰におけるイノベーション・環境局長賞（奨励者表彰）のあり方を変えた。標準化の経験が短い人でも対象となった。受賞をアピールする場として、researchmapにおける実績記載につながるようにしたい。
- ・昨年度のパイロット事業を踏まえ、長岡技術科学大学ではシステム安全の講座をオンデマンド形式で1月から開設。個人だけでなく企業単位での受講希望も想定。講座受講後に大学院で専門性を深め、人材育成につながることを目指している。
- ・スタートアップ支援関係の文科省予算で知財関係の講座を実施している高専はあるが、標準化関係の講座は未実施。シラバスガイドラインがあれば高専にも説明可能ではないか。また、高専のMCC(モデルコアカリキュラム)に標準化関係のワーディングを盛り込むことを検討されてもいいのではないかと。
- ・シラバスガイドラインは多くの人の参考になる。講座の中で標準だけでなく認証など基本的要素も位置づけられるとよい。

### （4）標準化とアカデミアとの連携に関する検討会 最終とりまとめ目次案について

資料5について、事務局から説明を行った。質疑応答は特になし。